

令和8年度岩手県新入生学習状況調査の結果(報告)

1 令和8年度岩手県新入生学習状況調査の概要

令和8年7月
学校教育室学力向上担当

調査の目的

中学校第1学年の生徒一人一人の学習の定着状況を把握し、その結果を基に中学校3年間の指導計画の作成及び指導の充実を図る。

各小学校において、出題趣旨と出身学校別の調査結果資料から小学校での学び全般の実態を捉え、今後の教科指導に生かす。

全県的な規模で小学校修了段階における学習の定着状況を把握するとともに、明らかになった学習のつまづきを分析し、学習面における中1ギャップへの対応と、今後の中学校3年間の授業改善に生かしながら、本県児童生徒の学力向上に資する。

実施内容

調査種類	教科調査〔国語・数学〕／生徒質問調査
調査実施日	令和8年4月23日（木）
調査対象	公立中学校第1学年・義務教育学校第7学年
対象数	8,830人

実施状況

実施学年（実施校数）	中学校第1学年（134校）
実施人数	国語8,279人 数学8,271人 生徒質問8,257人

平均正答数 （率）

（ ）は前年度比

国 語		数 学	
11.5／21問 54.8%（0）		8.9／18問 49.4%（△5.4）	
知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
68.6%（▼2.7）	51.5%（△3.0）	50.4%（△0.6）	46.0%（△14.5）



結果分析から見える主な特徴

①経年比較問題の状況

ア 改善が見られた項目

	番号	通番	調査問題のねらい	平均正答率 ※参考値()はR7	比較
国語	3(2)	12	描写を基に、登場人物の心情を捉える。	39.3% (24.4%)	△14.9
	4(4)	18	文章の構成を捉えて読む。	53.4% (44.2%)	△ 9.2
数学	1(2)	2	四則に関して成り立つ性質を理解している。	59.8% (48.8%)	△11.0
	8	11	データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断することができる。	46.8% (45.0%)	△ 1.8
	12	17	データの特徴や傾向に着目し、結論について多面的に捉え考察することができる。	34.9% (23.4%)	△11.5

国語の登場人物の心情や文章の構成を捉えて読むことや、数学の「データの活用」領域の経年比較問題において、改善傾向が見られた。

イ 改善が見られなかった項目

	番号	通番	調査問題のねらい	平均正答率 ※参考値()はR7	比較
国語	4(3)	17	文章の要旨を捉えて読む。	24.0% (25.0%)	▼1.0
数学	7(2)①	9	図形の周りの長さを求めることができる。	20.2% (20.6%)	▼0.4
	7(2)②	10	図形の面積を求めることができる。	60.9% (61.6%)	▼0.7
	9(1)	12	台形の意味や性質について理解している。(R7全国学調同一問題)	47.2% (39.6%)	△7.6

R7全国学力・学習状況調査で課題の見られた台形の意味について同一問題を出題した。平均正答率は7.6ポイント上がったが、依然として全国平均正答率50.2%（当時）を下回っており、引き続き課題が見られた。

②記述問題

	番号	通番	調査問題のねらい	平均正答率 ※参考値()はR7	無解答率 ※参考値()はR7
国語	5	19	根拠に基づいて自分の考えを書く。	57.4% (53.6%)	23.7% (29.6%)
	5	20	資料から読み取ったことをまとめて書く。	22.4% (20.8%)	27.2% (34.0%)
	5	21	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	42.1% (36.4%)	26.0% (32.1%)
数学	7	10	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて表現できる。	40.3% (39.2%)	12.7% (17.7%)
	8	11	データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断することができる。	46.8% (45.0%)	14.2% (9.8%)
	12	17	データの特徴や傾向に着目し、結論について多面的に捉え考察することができる。	34.9% (23.4%)	11.5% (12.5%)

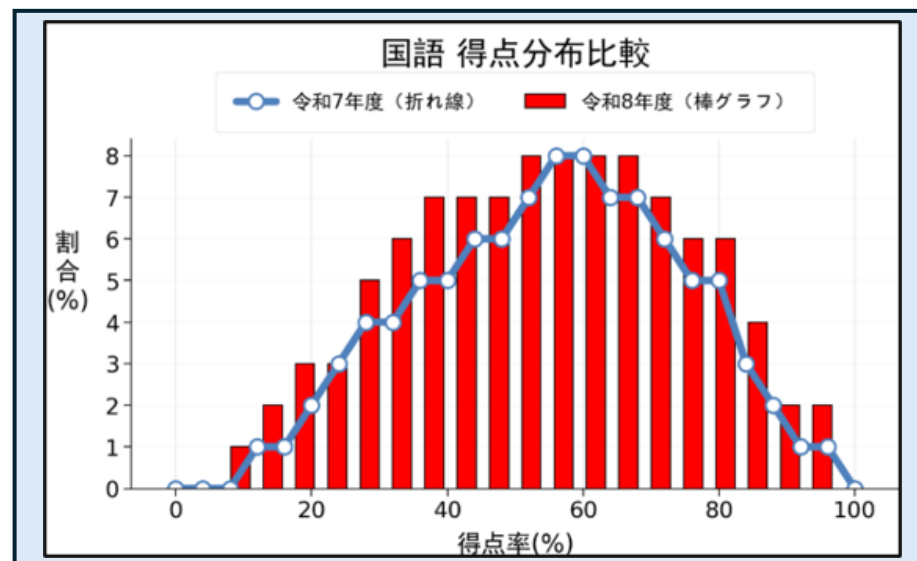
問題が異なるため参考値ではあるが、令和7年度新入生学調と比較し、平均正答率は上昇傾向にあり、無解答率は減少傾向が見られた。

結果概要

- 小問ごとの正答率において、「３（１）描写を基に、登場人物の心情を捉える」問題が84.0%、「１（２）話の内容が明確になるように、話の構成を考える」問題が76.4%で、比較的正答率の高い結果となった。
- 観点別では〔知識・技能〕が68.6%（－2.7ポイント）と昨年度を下回ったが、〔思考・判断・表現〕では「A 話すこと・聞くこと」が60.9%（＋3.6ポイント）、「B 書くこと」が51.5%（＋2.9ポイント）、「C 読むこと」が46.8%（＋2.8ポイント）と昨年度から改善がみられる。
- 経年比較問題である「３（２）描写を基に、登場人物の心情を捉える」問題が39.3%（＋14.9ポイント）となり、昨年度から改善がみられるが、引き続き注視していく必要がある。
- 経年比較問題の小問ごとの正答率では、「４（３）文章の要旨を捉えて読む」問題が24.0%（－1ポイント）と昨年度を下回り、改善が必要な状況にある。また、「５ 資料から読み取ったことをまとめて書く」問題が22.4%（＋1.6ポイント）と昨年度を上回ったものの、引き続き課題がある。事実と感想、意見とを区別して書くには、事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要である。

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%) ()はR7
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	我が国の言語文化に 関する事項	4	68.6 (71.3)
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	60.9 (57.3)
		B 書くこと	5	51.5 (48.6)
		C 読むこと	8	46.8 (44.0)
評価の観点		知識・技能	4	68.6 (71.3)
		思考・判断・表現	17	51.5 (48.5)
問題形式		選択式	9	62.9 (57.3)
		記述式	12	48.7 (72.5)

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
11.5問/21問	54.8%	12問	4.3問	13問



小問正答

1年 国語	岩手県	正答率(%)	選 択 No. (%)								出題形式
			1 選択	2 選択	3 選択	4 選択	5 誤答	6 正答	0 無解答		
1	集めた情報を整理して、話す内容を考えている。	47.5	32	48	12	8	0	0	0	選択	
2	話の内容が明確になるように、話の構成を考えている。	76.4	12	3	76	8	0	0	0	選択	
3	目的や意図に応じた資料を活用する。	57.7	5	4	33	58	0	0	1	選択	
4	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話している。	61.9	0	0	0	0	34	62	4	記述	
5	「枚」を正しく読む。	94.8	0	0	0	0	4	95	1	記述	
6	文の構成について理解する。(主語・述語)	62.6	0	0	0	0	37	63	1	記述	
7	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	50.6	0	0	0	0	34	51	15	記述	
8	日常使われる敬語を正しく使う。	66.4	0	0	0	0	29	66	4	記述	
9	目的や意図に応じた書き方の工夫を捉える。	65.1	4	65	17	13	0	0	1	選択	
10	文章全体の構成や書き表し方に着目して、文章を整える。	70.6	15	6	7	71	0	0	1	選択	
11	描写を基に、登場人物の心情を捉える。	84.0	3	9	84	3	0	0	1	選択	
12	描写を基に、登場人物の心情を捉える。	39.3	0	0	0	0	51	39	10	記述	
13	描写を基に、登場人物の心情を捉える。	41.1	0	0	0	0	44	41	15	記述	
14	表現の仕方を捉えて読む。	64.3	5	64	15	10	0	0	5	選択	
15	目的を意識して、中心となる語を見付けて要約する。	21.7	0	0	0	0	60	22	18	記述	
16	目的に応じて、必要な情報を捉えて読む。	46.8	17	20	47	12	0	0	4	選択	
17	文章の要旨を捉えて読む。	24.0	0	0	0	0	50	24	26	記述	
18	文章の構成を捉えて読む。	53.4	10	53	18	9	0	0	10	選択	
19	根拠に基づいて自分の考えを書く。	57.4	0	0	0	0	19	57	24	記述	
20	資料から読み取ったことをまとめて書く。	22.4	0	0	0	0	50	22	27	記述	
21	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	42.1	0	0	0	0	32	42	26	記述	

【第5・6学年】〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと
(1) A 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

結果のポイント①

「話すこと・聞くこと」において、集めた材料をどのように整理しているかについては把握できているが、その中で話し手が伝えたい内容を選んでスピーチしていることを捉えることには課題がある。

具体的な設問例 大問1 (1)

桜田さんは、【スピーチメモ】をもとに、どのようにスピーチをしているか、適切なものを選択する。

① 桜田さんの学級では、日本文化について調べて、発表し合うことになりました。桜田さんは「緑茶」をテーマにスピーチの練習をしています。次の【スピーチメモ】と【スピーチの練習】を読んで、あとの(1)～(4)の問題に答えなさい。

【スピーチメモ】

①種類 緑茶、ほうじ茶は同じ茶の木からできていて、育て方や加工方法がちがう。

②歴史 奈良・平安時代：中国から伝わる。室町時代：茶の湯・文化。江戸時代：広く飲まれるようになった。

③成分 カテキン、カフェイン、ビタミンC。

④外国 外国独自の飲み方(レモンや砂糖)。抹茶が人気。日本食ブーム、健康志向。外国独自の飲み方(レモンや砂糖)。

【スピーチの練習】

ぼくは、緑茶のすばらしさについて紹介します。まず、緑茶の種類について説明します。みなさんは、抹茶やほうじ茶を飲んでみたことはありますか。実は、これらのお茶は、育て方や加工方法がちがうだけで、同じ種類の茶の木からできています。このことを初めて知ったとき、ぼくはとてもおどろきました。次に、お茶の歴史を説明します。お茶は、奈良時代から平安時代に中国から伝わりました。広く飲まれるようになったのは、江戸時代だとされています。(A) 昔から、お茶は人々に親しまれてきたのです。続いて、この資料を見てください。(B) 外国でも緑茶の人気の高まっています。それは、日本食ブームや、健康を意識する人が増えたからだそうです。最後に、緑茶に含まれる成分について説明します。中でも知ってほしいのが、カフェインという成分です。カフェインは、うまみ成分の一つで、お茶をおいしくするだけでなく、リラックス作用などの体によい効果があります。ほかに、緑茶にはすばらしい点がたくさんあります。ぜひ、みなさんも緑茶を飲んで、そのすばらしさを味わってください。

解答の分析

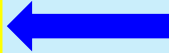
正答 [正答率47.5%]	2…情報に見出しを付けて整理し、紹介したい内容に必要な情報だけを選んでスピーチをした。
誤答例	1…情報を伝えたい順に番号を付けて並びかえて、メモに書いた順番どおりにスピーチをした。 (反応率32.0%)
	3…情報を、事実とそこから自分が考えたことに区別し、事実だけを選んでスピーチをした。 (反応率11.8%)
	4…情報を共通する点と異なる点の二種類に分類し、情報を対比させながらスピーチをした。 (反応率7.5%)
○誤答の解説 - スピーチメモの中から桜田さんが特に伝えたいことを選んでスピーチをしていることを捉えることができたと考えられる。 (2と解答しているもの) - スピーチメモと実際のスピーチ内容を照らし合わせても伝えたい順になっているわけではないことが捉えられなかったと考えられる。 (1と解答しているもの)	

指導改善のポイント

話し手が伝えたいことに応じて様々な情報を取捨選択し、整理して話すことが大切である。

スピーチにどのように生かされている？

メモに書かれてあること



結果の
ポイント②

「読むこと」の文学的な文章において、令和7年度問題で課題が見られた表現の仕方を捉えて読むことはできているが、描写を基に登場人物の心情を捉えることには引き続き課題がある。

具体的な
設問例
大問３（３）

「わたしはだまって、手ぬぐいを頭にきつくきつく巻いた」という表現に着目して述べた【森田さんの感想】の ウ に当てはまる言葉を、文章中の言葉を使って、20字以上、30字以内で書く。

国語問題 9 ページ 13行目～28行目

【森田さんの感想】

休憩に入ったときの「わたし」は、「このへんで浩次郎くん一本決めてもらって……。」と考えていたよ。でも、石田と話すことによって、安心するとともに、ウ （ことに感謝しているんだね。」「手ぬぐいを頭にきつくきつく巻いた」という表現からは、試合に向けて、「わたし」が気を引きしめ直す様子が読み取れるよ。



森田さん

解答の分析

無解答率14.6%

正答例
[正答率41.1%]

また逃げてしまうところだった自分を引きもどしてくれた

誤答例

林さんが体当たりの練習や技の練習につきあってくれた

○誤答の解説

このように解答した生徒は、**感謝**している言葉は見つけているものの、「わたし」が林さんであることを捉えることができずに、直前の石田くんの会話文から判断したと考えられる。

指導改善のポイント

登場人物の相互関係や心情などについて、描写に着目しながら読み進めていくことが重要である。登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もあるが、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もあることにも注意し、想像を豊かにしながら読むことが大切になる。その際、一つの叙述から捉えるのではなく、複数の叙述を基に捉えることを指導すると効果的である。

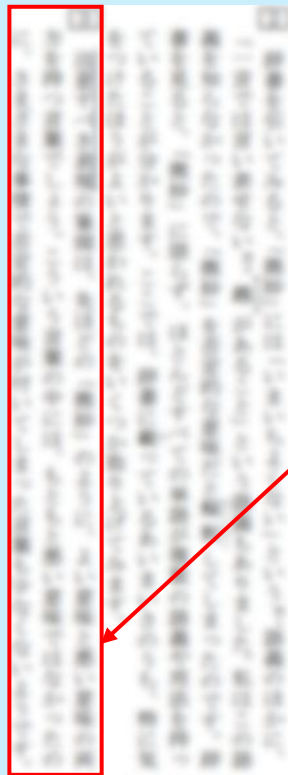
結果の
ポイント③

「読むこと」の説明的な文章において、中心となる語には着目できているが、段落相互の関係を把握したうえで、要約して読むことには課題がある。

具体的な
設問例
大問４（１）

南川さんが発表のためにまとめた傍線部「注意すべき表現」について空欄に当てはまる言葉を文章中から字で抜き出して書く。

本文 ③段落	本文 ②段落
-----------	-----------



<関係>

考え ■ 事例

(1) この文章を読んだ南川さんは、発表するにあたり、文章の内容を整理するために、文章中の——線部「注意すべき表現」について、次のようにまとめました。

ア に当てはまる言葉を、文章中から十五字でぬき出して書きなさい。

注意すべき表現
↓
なぜ注意すべきなのか。
(例)「微妙」の語義
いまいちよくないこと
一言では言い表せない趣があること
ア ことを知らなかったので、「私」は否定的なほうの意味で受け取ってしまった。

解答の分析

無解答率18.5%

正答 [正答率21.7%]	よい意味と悪い意味の両方を持つ <15字>
誤答例	一言では言い表せない <10字> この語義を知らなかった <11字> 複数の語義や用法 <8字>

○誤答の解説

このように解答した生徒は、正答が含まれている第3段落ではなく、第2段落の文章中から言葉を抜き出して書いている。第3段落が「考え」で、第2段落がその「事例」であることを捉えた上での解答が必要になる。

指導改善のポイント

説明的な文章の学習活動において、読むことの目的に応じて、言葉、文章の一部分のみに着目するだけではなく、段落ごとに書かれてあることの内容を把握すること、段落相互の関係を捉えても読むことができるように指導していくことが大切である。

●要約して読むことに課題が見られる。

→ 読む目的に応じて、中心となる語や文、段落相互の関係に着目して読むことができるようにする。

国語
大問4 (1)

南川さんが発表のためにまとめた傍線部「注意すべき表現」について空欄に当てはまる言葉を文章の中から15字で抜き出して書く。

(1) この文章を読んだ南川さんは、発表するにあたり、文章の内容を整理するために、文章中の――線部「注意すべき表現」について、次のようにまとめた。アに当てはまる言葉を、文章中から十五字で抜き出して書きなさい。

注意すべき表現
↓なぜ注意すべきなのか。
(例)「微妙」の語義
「一言では言い表せない趣があること」
「ことを知らなかったので、「私」は否定的なほうの意味で受け取ってしまった。」

本文 3段落	本文 2段落
よい意味と悪い意味の両方を持つ (正答率21.7%)	一言では言い表せない趣がある <14字> この語義を知らなかった <11字> 複数の語義や用法 <8字> (反応率60%)

授業実践アイデア例

教材：令和8年度岩手県中学校新入生学習状況調査【国語】大問4



文章を読んで気づいたことを発表しましょう。

みなさん、大事な言葉に目を付けていますね。

3段落までに、「微妙」という言葉がたくさん出てきているな。

Point!

【要約】
目的や必要に応じて文章を短くまとめること
★要約のポイント★
内容の中心となる語や文を選ぶこと



3段落には「微妙」のことを「注意すべき表現」と書いているね。



ここで筆者は何を伝えたいのでしょうか？

3段落が、ここまでで伝えたいことだね。「よい意味と悪い意味の両方を持つ言葉」に「注意すべき」と書いてあるよ

それを伝えたいから、1段落で勘違いした例を挙げているんだね。



2段落で「微妙」の辞書での意味や、勘違いした原因を説明して、3段落の考えにつながるようにしているね。

語や文だけではなく、段落や、段落どうしの関係にも注目すると良いんだな。

Point!

目的に応じて、中心となる語や文、段落どうしの関係に着目して読む

（１）ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

結果のポイント④

「書くこと」において、根拠に基づいて自分の考えを書くことはできているが、資料から読み取ったことをまとめて書くことに課題がある。

具体的な設問例 大問５

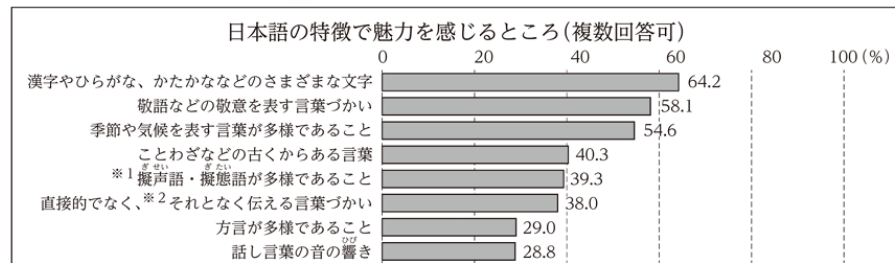
今後どのようなことを大切にして、言葉を使っていきたいと思うかについて、自分の考えを書く。

条件① 一段落目には自分の考えを具体的に書くこと

条件② 二段落目には理由や根拠として【資料Ａ】【資料Ｂ】の両方から読み取ったことを書くこと

条件③ 二段落構成とし、七行以上、九行以内（121字以上、180字以内）で書くこと

【資料Ａ】 日本語の魅力に関するアンケートの結果



※1 擬声語・擬態語…「さらさら」「きらり」など、音や様子を表す言葉のこと。（文化庁 令和５年度「国語に関する世論調査」をもとに作成）

※2 それとなく…本アンケートでは「はっきり言わずに、さりげなく伝えること」という意味。

【資料Ｂ】 新聞に投稿されたアメリカ出身外国人の意見文

私は、アメリカで生まれ、大学生のときに日本に来了。日本に住んでみて、日本語の使い方でおどろかされたり、なやまされたりすることがいくつかあった。

町で、話しかけられたときに「大丈夫です」と返答しているところを見かける。「大丈夫です」は、問題ない、という意味があるのに、この「大丈夫です」は、それとなく断るための言葉だと知りおどろいた。

何より、日本語は漢字が難しいと思う。同じ漢字でも読み方を使い分ける必要があり、例えば「正」という字は、「せい」「しょう」「ただ」「まさ」などと多くの読み方があり、とても混乱する。

それに、敬語も難しかった。日本語では、「山田さんが行く」も「山田さんがいらっしゃる」も「山田さんが行かれる」も、英語では「Mr./Ms. Yamada will go.」という同じ表現になるからだ。

しかし、同時に、日本語はとても興味深く、魅力的な言葉だと感じることもたくさんあった。

まず、「いけない」を「あかん」と言う地域があるように、地方によって言葉が変わることは興味深い。

また、日本人の友人から手紙をもらったとき、「青葉の候」という言葉が書かれていたので調べたところ、「木々が青々と茂る季節になりましたね」という意味だと知った。季節に合った美しい言葉で、たいへん感動した。日本語は難しいが、とても魅力的な言葉でもある。私はこれから日本語を学び続けていきたいと思う。

解答の分析

無解答率27.2%

正答例 [正答率22.4%]

理由は、資料Aのように話し言葉と敬語では、言い方や響きが変わるため印象が変わることや、Bの資料のように方言があり、地方によって言葉が変わることがあるので、場面に合わせた言い方や響きを大切にしたいと思ったからです。

誤答例

理由は、資料Bの「大丈夫です」の言葉には二つの意味があり、意味を理解していないと日本語の使い方を間違えることがあるので、これから意味を理解することを大切にしたいと思ったからです。

○誤答の解説

このように解答した生徒は、【資料B】からは理由や根拠を取り上げている。しかし、【資料A】からは理由や根拠を取り上げていない。

指導改善のポイント

事実と感想、意見とを区別して書くには、事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要である。ここでは、【資料A】と【資料B】の事実を根拠として、今後どのようなことを大切にして、言葉を使っていきたいと思うか、考えを形成する必要がある。その際、一つの資料だけではなく、複数の資料を関連させながら自分の考えを形成する指導を行うことが効果的である。自分の考えたことが客観的な事象に裏付けられたものになっているかどうかを振り返ることが、自分の考えをより深めていくことにつながる。

【第5・6学年】【思考力、判断力、表現力等】B書くこと
(1) ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

● 資料から読み取ったことをまとめて書くことに課題が見られる。

→ 事実を客観的に書くこと、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことができるようにするために、【考えの形成】の段階を大事にし、事実と感想、意見とを区別して記述する必要性に気づくことができるようにする。



国語
大問5

事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことができるかどうかをみる問題

授業実践アイデア例

教材：令和8年度岩手県中学校新入生学習状況調査【国語】大問5

【考えの形成】の段階



【資料A】と【資料B】を読み、言葉の使い方に関係することで、気になるところに線を引きましょう。

Point!

複数の資料を関連付けたり、友達と話し合ったりすることで、考えを形成できるようにする。



みなさんは、今後どのようなことを大切にして、言葉を使っていきたいですか？

【資料A】の「直接的でなく、それとなく伝える言葉づかい」に魅力を感じるとというのが、わかるなあ。

でも【資料B】では、外国人は「大丈夫です」という言葉に、難しさを感じているみたいだよ。

そうか。相手や場面によって、どのように伝えるかを考える必要があるんだね。

私は、さまざまな場面に応じて、表現の仕方や言葉を使い分けていきたいな。



【考えの形成】の段階を大事にすることで、自分の考えと、その理由や根拠の関係を明らかにしていく。

Point!

【記述】の段階



(モデル文の提示)
この文章は、どのようなことに気を付けて書いているでしょうか。

2段落目には、AとBの両方の資料から読み取ったことが書いてあるね。



1段落目には「自分の考え」が書いてあるね。

2段落目は、1段落目に書いた「自分の考え」の「理由」や「根拠」になっていそうだな。



1段落目と2段落目を分けて書いたことのよさは何ですか？

「意見」と「事実」が区別されていて、読んだときに書いた人の考えが伝わってきました。

Point!

事実と感想、意見とを区別して記述する必要性に気付くことができるようにする。

そうか。1段落目は「意見」で、2段落目はその理由や根拠にあたる「事実」なんだね。よし。そこに気を付けて書いてみよう。



正答例	(2段落目)理由は、資料Aのように話し言葉と敬語では、言い方や響きが変わるため印象が変わることや、Bの資料のように方言があり、地方によって言葉が変わることがあるので、場面に合わせた言い方や響きを大切にしたいと思ったからです。
誤答例	(2段落目)理由は、資料Bの「大丈夫です」の言葉には二つの意味があり、意味を理解していないと日本語の使い方を間違えることがあるからで、これから意味を理解することを大切にしたいと思ったからです。

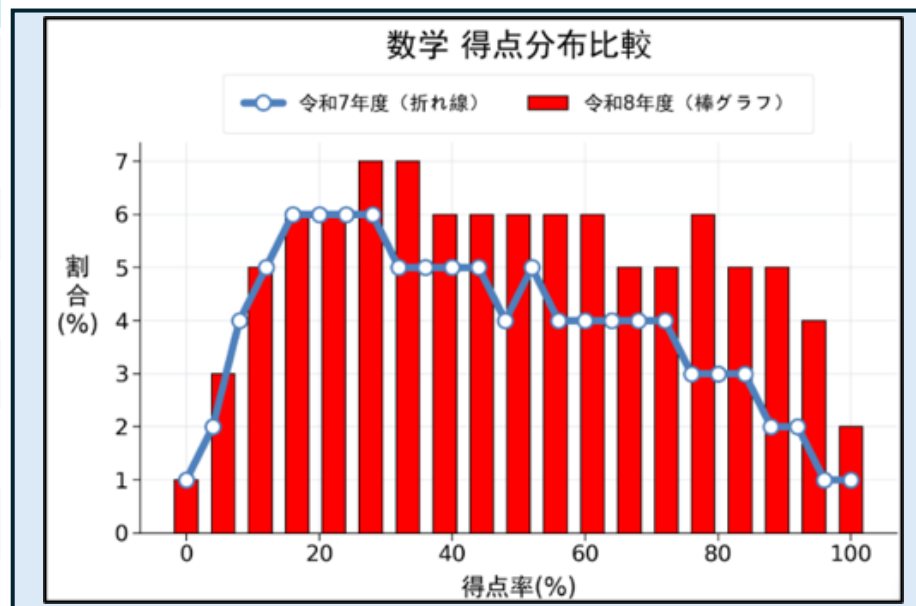
○誤答例の解説
このように解答した生徒は【資料B】からは理由や根拠を取り上げている。しかし、【資料A】からは理由や根拠を取り上げていない。

結果概要

- 正答数の層別では、上位層が27.0%（+9.0%）で増えるなど、全体的に山が右によりつつある。観点別では〔知識・技能〕が50.4%（+0.6ポイント）、〔思考・判断・表現〕が46.0%（+14.5ポイント）となり、課題は残っているが、一定の改善がみられる。
- R7全国学力・学習状況調査で課題の見られた「台形の意味」について、改善の状況を確認するために、同一問題を出題した。正答率は+7.6ポイント上回り、一定の改善は見られるが、依然として全国の正答率50.2%（当時）を下回っており、課題が継続している。
- 学力向上iACT-R8で取り上げた「速さ・割合」について、大問3「速さの意味」の正答率は54.2%で、単位時間あたりに移動する長さとして捉えると、速いほど大きな数値が対応すること、また、一定の長さを移動するのにかかる時間として捉えると、速いほど小さな数値が対応することなどの理解に、引き続き課題がみられる。
- 大問4「除法に関して成り立つ性質」について、昨年度の正答率が12.1%だったことから、問い方を見直し同内容の問題を出題したところ、正答率は62.1%と大幅に上回った。改めてつまずきがどこにあるのか、今後も注視していく。

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%) ()はR7
学習指導要領の 領域	数と計算	4	59.3 (51.0)
	図形	6	42.9 (36.3)
	変化と関係	5	54.5 (46.5)
	データの活用	3	40.7 (40.6)
評価の観点	知識・技能	14	50.4 (49.8)
	思考・判断・表現	4	46.0 (31.5)
問題形式	選択式	5	52.2 (62.3)
	記述式	13	48.3 (51.3)

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
8.9問/18問	49.4%	9 問	4.8問	5 問



小問正答

1年 数学	岩手県	正答率(%)	選 択 No. (％)								出題形式
			1	2	3	4	5	6	0		
			選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答		
1	示された場面を適切に読み取り、求めたい数量を求めることができる。	72.6	0	0	0	0	27	73	0	記述	
2	四則に関して成り立つ性質を理解している。	59.8	5	14	21	60	0	0	1	選択	
3	整数を偶数と奇数に類別したときの式の表し方を理解している。	68.8	5	69	9	16	0	0	0	選択	
4	異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方を理解している。	54.2	12	54	13	20	0	0	1	選択	
5	除法に関して成り立つ性質を用いて、計算の仕方を考えることができる。	62.1	0	0	0	0	33	62	5	記述	
6	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて表現できる。	40.3	0	0	0	0	47	40	13	記述	
7	示された除法の式の意味を理解している。	42.8	21	43	22	14	0	0	1	選択	
8	円の面積の求め方を理解している。	40.8	0	0	0	0	58	41	1	記述	
9	図形の周りの長さを求めることができる。	20.2	0	0	0	0	74	20	5	記述	
10	図形の面積を求めることができる。	60.9	0	0	0	0	34	61	5	記述	
11	データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断することができる。	46.8	0	0	0	0	39	47	14	記述	
12	台形の意味や性質について理解している。	47.2	0	0	0	0	52	47	1	記述	
13	角柱の高さについて理解している。	35.5	35	7	14	42	0	0	1	選択	
14	表の数値が表している数量を理解している。	40.7	0	0	0	0	57	41	2	記述	
15	伴って変わる二つの数量の関係を、式を用いて表すことができる。	59.4	0	0	0	0	38	59	3	記述	
16	等しい比及びそれらの意味について理解している。	49.3	0	0	0	0	49	49	1	記述	
17	データの特徴や傾向に着目し、結論について多面的に捉え考察することができる。	34.9	0	0	0	0	54	35	12	記述	
18	2つの角柱の体積の関係をもとに、一方の角柱の高さを求めることができる。	52.9	0	0	0	0	42	53	5	記述	

結果の
ポイント①

「数と計算」において、文章題から示された場面を適切に読み取ってイメージをつくり、問題解決をすることに課題がある。

具体的な
設問例
大問１（１）

小学校１年生 数と計算（２）ア

加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりする。

さくらさんを含めた生徒17人が、ろう下に一列に並んでいます。
さくらさんの前に8人います。
さくらさんの後ろには、何人いますか。

解答の分析

正答 [正答率72.6%]	8人
誤答例	①9人 ②6人、7人、16人、その他

○誤答の解説

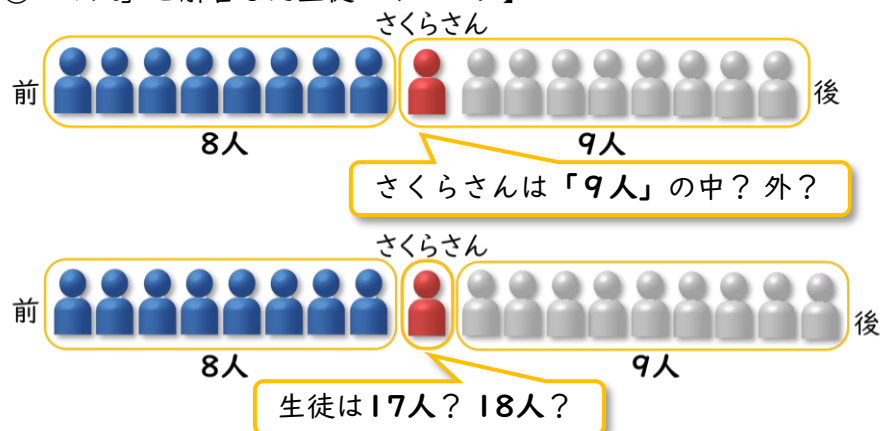
①「9人」

- ・全体の人数から、さくらさんの前にいる人数をひいて答えを求めている。（ $17-8=9$ と式を立て、答えを求めようとしている。）
- ・図に表す等、場面を適切にイメージすることができない。
- ・さくらさんを除いて、うしろにいる人数を考える必要があることを捉えられていない。

②「6人」「7人」、「16人」、その他

- ・示された場面をイメージすることができていない。
- ・問題文、図、式などをつなげて考えることに難しさが見られる。
- ・問題文に出てきていない数を補って考えることができない。
（さくらさんを1人として考えることができない。）

【①「9人」と解答した生徒のイメージ】



誤答の中には「 $17-8=9$ 」計算結果だけをみて「9人」と解答した生徒がいると考えられる。さくらさんの前の8人をひいた残りの「9人」に、さくらさん自身が含まれていることや、前に8人、後ろに9人だと、さくらさんを含めると全部で18人になってしまうことに気付けない生徒がいると考えられる。

指導改善のポイント

小学校第1学年の文章題から状況をイメージできない生徒が一定数いることに注目し、問題文の読解なのか、計算結果を場面に則して解釈することなのかなど、学習状況を見取り、つまづきを生かして、具体的なものや図を使うなど、生徒が主体的に学びを調整できるようにすることことが大切である。

結果の
ポイント②

「変化と関係」において、二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、その比べ方を理解することに課題がある。

具体的な
設問例
大問３

小学校５年生 変化と関係（２）ア

単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二人のどちらのほうが速いのかについて判断する。

③ 次の表は、ＡさんとＢさんが走ったきよりとかかった時間の記録です。

走ったきよりとかかった時間

	きより (m)	時間 (秒)
Aさん	80	16
Bさん	100	18

AさんとBさんのどちらが速いかを、ひろさんとゆうこさんはそれぞれ次のように調べました。



Aさん $80 \div 16 = 5$
Bさん $100 \div 18 = 5.55\cdots$
だから、の方が速い。



Aさん $16 \div 80 = 0.2$
Bさん $18 \div 100 = 0.18$
だから、の方が速い。

【比べ方】

- ア 1秒あたりの進むきよりが、長いほうが速い。
イ 1秒あたりの進むきよりが、短いほうが速い。
ウ 1mあたりにかかる時間が、長いほうが速い。
エ 1mあたりにかかる時間が、短いほうが速い。

ひろさんとゆうこさんは、それぞれどのような【比べ方】で考えたのかについて、正しく説明しているものが、次の①～④の中に1つあります。それを1つ選び、番号で答えなさい。

- ① ひろさんの比べ方はアで、ゆうこさんの比べ方はウです。
② ひろさんの比べ方はアで、ゆうこさんの比べ方はエです。
③ ひろさんの比べ方はイで、ゆうこさんの比べ方はウです。
④ ひろさんの比べ方はイで、ゆうこさんの比べ方はエです。

解答の分析

正答 [正答率54.2%]	②…ア、エと解答しているもの
誤答例	①…ア、ウと解答しているもの（反応率12.2%） ③…イ、ウと解答しているもの（反応率13.4%） ④…イ、エと解答しているもの（反応率19.6%）
○誤答の解説 商が表す数字の意味について理解できていない。（特に③と解答しているもの） 1秒あたりに進む距離でそろえたとき、距離の長いほうが速いといえることや、1mあたりにかかる時間をそろえたとき、時間が短いほうが速いといえることなど、速さの意味について理解できていない。	

指導改善のポイント

商が表す数字の意味について理解できていない生徒に対しては、なぜ、距離か時間をそろえる必要があるのかについて、表の数字に着目しながら考えることで、単位量当たりの考えを使って比べるとよいことに気付くことができるようにする。その上で、ひろさんとゆうこさんは、それぞれ何をそろえて比較しているのか、表や式と関連付けながら理解できるようにすることが大切である。

また、児童は日常生活において、人の走る速さや乗り物が移動する速さなどを、速い、遅いなどと表現して捉える経験をしてきている。そこで、具体的な場面として、1時間で60km進む車と80km進む車を比較し、1時間で進む距離が長いほうが速い、100m走などの競技で走るのにかかる時間を比較し、時間が短いほど速い、などのように、日常生活の中から速さを考察する活動を位置付け、「速い」ということの意味について確かめることも大切である。

- 式の意味を読むこと、異種の2つの量を比較する場面で単位量当たりの大きさを比較することの意味の理解に課題が見られる。
→ 速さを比較するために立てた式の意味について、表などを用いて考察する活動を取り入れ、距離と時間のどちらをそろえて速さを比較しようとしているのかを捉え、その上で「単位量当たりの大きさ」に着目して判断できるようにする。



中学校数学
大問3

速さを比較するために立てた式について、距離と時間の関係から単位量当たりの大きさに着目し、「どちらが速いか」を判断する理由を正しく説明している組み合わせを選択できるかをみる問題

③ 次の表は、AさんとBさんが走ったきょりとかった時間の記録です。

	きょり (m)	時間 (秒)
Aさん	80	16
Bさん	100	18

【比べ方】

ア 1秒あたりの進むきょりが、長いほうが速い。
イ 1秒あたりの進むきょりが、短いほうが速い。
ウ 1mあたりにかかる時間が、長いほうが速い。
エ 1mあたりにかかる時間が、短いほうが速い。

ひろと
Aさん $80 \div 16 = 5$
Bさん $100 \div 18 = 5.55\cdots$
だから、の方が速い。

ゆうこ
Aさん $16 \div 80 = 0.2$
Bさん $18 \div 100 = 0.18$
だから、の方が速い。

ひろとさんとゆうこさんは、それぞれどのような【比べ方】で考えたのかについて、正しく説明しているものが、次の①～④の中に1つあります。それを1つ選び、番号で答えなさい。

① ひろとさんの比べ方はアで、ゆうこさんの比べ方はウです。
② ひろとさんの比べ方はアで、ゆうこさんの比べ方はエです。
③ ひろとさんの比べ方はイで、ゆうこさんの比べ方はウです。
④ ひろとさんの比べ方はイで、ゆうこさんの比べ方はエです。

正答 [正答率54.2%]	②…ア、エと解答しているもの
誤答例	①…ア、ウと解答しているもの（反応率12.2%） ③…イ、ウと解答しているもの（反応率13.4%） ④…イ、エと解答しているもの（反応率19.6%）

- ・ イやウを選択した生徒は、「距離をそろえたときは、時間が短いほうが速い」「時間をそろえたときは、距離が長いほうが速い」ことなど、速さの意味について理解できていないと考えられる。
- ・ 速さなど単位量当たりの大きさの学習においては、どのようにすると比べることができるかを考えたり、数値化することができるかを考えたりすることが大切である。さらに、例えば速さであれば、単位時間あたりに移動する長さとして捉えたり、一定の長さを移動するのにかかる時間として捉えたりするなど、目的に応じた処理の仕方を工夫することが大切である。
- ・ 学習指導に当たっては、**比例**や**平均の考え**などを前提としていることを踏まえ、その意味を理解させていくような配慮が必要である。例えば、速さを比べる場合、時間を2倍、3倍、4倍、…にしたとき、距離も2倍、3倍、4倍、…すれば速さが変わらないことを用いて、比較するときには、どちらか一方の量、例えば距離を揃えて、もう一方の量の時間の大小で比べると比べやすいことに気付かせる。



下の表は、AさんとBさんが走ったきょりとかった時間の記録です。どちらが速いでしょうか。

Point!

どちらかをそろえるという見方・考え方を働かせる。

①

	きより (m)	時間 (秒)
Aさん	100	20
Bさん	100	18

②

	きより (m)	時間 (秒)
Aさん	90	18
Bさん	100	18

③

	きより (m)	時間 (秒)
Aさん	80	16
Bさん	100	18



①は、運動会の100m走と同じだ。かかった時間が短いほうが速い。



②は、きょりが違うけれど、時間は18秒で等しいから、走ったきょりが長いほうが速い



③は、きょりと時間と、どちらにそろえて比べればよいのかな？



③は、きょりを10mでそろえて比べることができそうだね。



走ったきょりを10mでそろえると、右の表のようになる。10mあたりにかかる時間は、2秒と1.8秒で、短いほうが速いから、Bさんのほうが速い。

	きょり (m)	時間 (秒)
Aさん	$80 \div 8 = 10$	$16 \div 8 = 2$
Bさん	$100 \div 10 = 10$	$18 \div 10 = 1.8$

きょりを8でわったら、時間も同じように8でわればよいんだ



比例のように、きょりと時間に同じ数をかけたり、同じ数でわったりすれば、そろえることができるね。



ひろとさんとゆうこさんは、どちらにそろえて比べようとしているのでしょうか。同じように、表に整理して考えてみましょう。



ひろと
Aさん $80 \div 16 = 5$
Bさん $100 \div 18 = 5.55\cdots$
の計算をして比べます



ゆうこ
Aさん $16 \div 80 = 0.2$
Bさん $18 \div 100 = 0.18$
の計算をして比べます



ひろとさんは、「 $80 \div 16 = 5$ 」としているから、時間も16でわって、「 $16 \div 16 = 1$ 」として、同じように、「 $100 \div 18 = 5.55\cdots$ 」としているから、時間も18でわって、「 $18 \div 18 = 1$ 」として、1秒あたりの進むきょりをそろえて比べようとしている。そうすると、1秒あたりの進むきょりが、長いほうが速いから、Bさんのほうが速い。

	きょり (m)	時間 (秒)
Aさん	$80 \div 16 = 5$	$16 \div 16 = 1$
Bさん	$100 \div 18 = 5.55\cdots$	$18 \div 18 = 1$

同じように、表をみながら、ゆうこさんのほうも考えてみればよいね。

結果の
ポイント③

「変化と関係」において、「何を１とみるか」ということや、割合に基づいて関係を捉えることに課題が見られる。

具体的な
設問例
大問11

6年 変化と関係（２）ア

学校で酢とサラダ油を２：３の比で混ぜてつくったドレッシングを家で同じ味になるようにつくるとき、適切な比を選択する。

- 11 まさやさんは、学校で酢とサラダ油を混ぜてドレッシングをつくりました。
そのときの酢とサラダ油の量は、次のとおりでした。

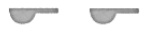
酢	サラダ油
	
小さじ 2 はい	小さじ 3 ぱい

学校でつくったドレッシングは、
酢とサラダ油の比が、２：３です。



まさや

まさやさんは、家で学校と同じ味のドレッシングをつくらうとしています。
学校でつくったドレッシングと同じ味になる酢とサラダ油の比が２：３である
ドレッシングは、次の①～④の中でどれになりますか。
あてはまるものをすべて選び、番号を答えなさい。

	酢	サラダ油
①	 小さじ 3 ぱい	 小さじ 4 はい
②	 小さじ 4 はい	 小さじ 6 ぱい
③	 大さじ 2 はい	 大さじ 3 ぱい
④	 小さじ 2 はい	 大さじ 3 ぱい

解答の分析

正答 [正答率49.3%]	小さじ４はいと小さじ６はい（選択肢②）および 大さじ２はいと大さじ３ぱい（選択肢③）を選択しているもの
誤答例	１…小さじ３ぱいと小さじ４はい（選択肢①）を選択しているもの ２…小さじ４はいと小さじ６はい（選択肢②）を選択していないもの ３…大さじ２はいと大さじ３ぱい（選択肢③）を選択していないもの

○誤答の解説

- 割合ではなく１ずつ増えていること（差）に着目している。
計器が例で示された小さじであることから判断している。
- 比の相等（等しい比）及びそれらの意味について理解できていない。
- 小さじ１ぱいを１とみても大さじ１ぱいを１とみても、同じ２：３の比であれば
同じ味になることが理解できていない。

指導改善のポイント

複数の数量の関係を提示し、「なぜ同じ味になるのか」、「『１とみるもの』が違っても比は同じなのか」等について説明し合う場面を設定し、比の意味や表し方についての理解を深めることが大切である。

小さじ４はいと小さじ６はい（選択肢②）を選択していない児童に対する指導としては、例で示された小さじ２はいと小さじ３ぱいのドレッシングをもう１回作って混ぜ合わせた場合、同じ味になることを確かめる活動をとおして、小さじ２はいと小さじ３ぱいの割合と小さじ４はいと小さじ６はいの割合が等しいことや、二つの数量の間には比例関係があることを理解させること等が考えられる。

2 教科に関する調査結果（２）（数学）

結果のポイント④ 「データの活用」において、代表値の意味を理解して活用したり、目的に応じて根拠を整理して説明したりすることに課題が見られる。

具体的な設問例
大問 8

6年 データの活用（１）イ
1年1組と2組の読書記録の本の冊数において、2組のほうが多く読んだ学級である理由を資料の特徴を踏まえて説明する。

8 図書委員の人たちは、1年1組24人と2組23人の読書記録を本の冊数に着目して調べ、どちらの学級が本を多く読んだといえるか考えることにしました。

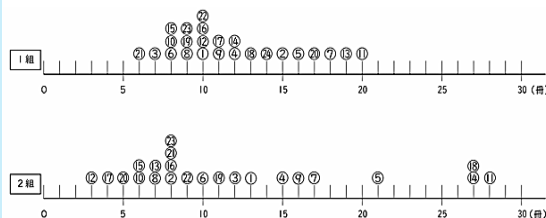
読書記録調べ（1組）

番号	冊数(冊)	番号	冊数(冊)
①	10	⑬	19
②	15	⑭	12
③	7	⑮	8
④	12	⑯	10
⑤	16	⑰	11
⑥	8	⑱	13
⑦	18	⑲	9
⑧	9	⑳	17
⑨	11	㉑	6
⑩	8	㉒	10
⑪	20	㉓	9
⑫	10	㉔	14

読書記録調べ（2組）

番号	冊数(冊)	番号	冊数(冊)
①	13	⑬	7
②	8	⑭	27
③	12	⑮	6
④	15	⑯	8
⑤	21	⑰	4
⑥	10	⑱	27
⑦	17	⑲	11
⑧	7	㉑	5
⑨	16	㉒	8
⑩	6	㉓	9
⑪	28	㉔	8
⑫	3		

次に、それぞれの学級が読んだ本の冊数についてデータをドットプロットに表し、データのちがいの様子についてくわしく見てみることにしました。



指導改善のポイント

代表値や散らばりなどのデータの特徴を根拠として用い、題意に沿って説明できるようにすることが大切である。代表値の意味を確認したり、代表値を求めたりする活動にとどまることなく、目的に応じて、どの代表値を用いるとよいかを考えたり、代表値やドットプロット等を用いて説明したりする活動を設定することが大切である。その際、結論とつながる説明となっているかどうかを検討することが大切である。

次に、図書委員の人たちは、データを代表値で表し、学級の持ちようを見ることにしました。

	1組	2組
平均値(冊)	11.75	12
最頻値(冊)	10	8
中央値(冊)	10.5	9

図書委員の人たちは、ドットプロットや代表値をもとにして、どちらの学級が本を多く読んだといえるか考え説明しています。



1組のほうが2組よりもちがりが小さく、最小の値が2組より大きいから、私は1組のほうが本を多く読んだと考えます。



最頻値を見ると、1組が10冊で、2組の8冊より大きいから、私は1組のほうが本を多く読んだと考えます。



平均値を見ると、1組が11.75冊で、2組の12冊のほうが大きいから、私は2組のほうが本を多く読んだと考えます。

3人の説明を参考にして、2組の方が本を多く読んだ学級である理由を資料の持ちようをもとに説明しなさい。
ただし、あゆみさんが使った平均値以外で説明することとします。

解答の分析

正答
[正答率46.8%]

15冊以上、20冊以上の人数や最大値を利用して、2組のほうが本を多く読んだ学級である理由を説明しているもの

誤答例

- ①「平均値が1組より大きい」「1組のほうが多い」「散らばりが大きい」「ドットプロットがまとまっている」など
- ②「25冊から30冊では2組が3人いて1組は0人なので多いと思うし、最頻値を見ると1組が10冊で2組が8冊で小さいので2組のほうがたくさん読んでいる」など
- ③「最頻値が小さいから2組のほうが多く読んだと言える」など
- ④無解答（18%）

○誤答の解説

- ①題意が理解できておらず、自分が考えた方法を条件に合わない形で示したり、別な結論を述べたりしている。集団の傾向を説明しているだけで、2組の方が多く読んだ説明になっていない。
- ②説明するために必要な根拠を把握できていない。複数の理由をあげることで十分な説明ができると誤解している。
- ③代表値の意味が理解できていない。

● 代表値の意味を理解して活用したり、目的に応じて根拠を整理して説明したりすることに課題が見られる。

→ 代表値や散らばりなどのデータの特徴を根拠として用い、題意に沿って説明できるようにする。

中学校数学
大問 8

1年1組と2組の読書記録の本の冊数において、2組のほうが多く読んだ学級である理由を資料の特徴を踏まえて説明する問題



ゆうき
1組のほうが2組よりもちがりが小さく、最小の値が2組より大きいから、私は1組のほうが本を多く読んだと考えます。



よしき
最頻値をみると、1組が10冊で、2組の8冊より大きいから、私は1組のほうが本を多く読んだと考えます。



あゆみ
平均値をみると、1組が11.75冊で、2組の12冊のほうが大きいから、私は2組のほうが本を多く読んだと考えます。

3人の説明を参考にして、2組の方が本を多く読んだ学級である理由を資料の特ちょうをもとに説明しなさい。
ただし、あゆみさんが使った平均値以外で説明することとします。

正答 [正答率46.8%]	15冊以上、20冊以上の人数や最大値を利用して、2組の方が本を多く読んだ学級である理由を説明しているもの
誤答例	①「平均値が1組より大きい」 「1組のほうが多い」 「散らばりが大きい」 「ドットプロットがまとまっている」など ②「25冊から30冊では2組が3人いて1組は0人なので多いと思うし、最頻値を見ると1組が10冊で2組が8冊で小さいので2組のほうがたくさん読んでいる」など ③「最頻値が小さいから2組のほうが多く読んだと言える」など ④無解答（18%）

授業実践アイデア例



3人の説明を参考にして、2組のほうが本を多く読んだ学級である理由を資料の特徴をもとに説明しましょう。



結論と根拠のつながりに目を向けることが大切ですね。ゆうきさん、よしきさん、あゆみさんの結論、根拠として用いたもの、根拠の妥当性について整理してみましょう。

	ゆうき	よしき	あゆみ
結論	1組	1組	2組
根拠	ちがりの大きさ 最小値	最頻値	平均値
妥当性	○	○	○

Point!

三人が用いた根拠の妥当性について考察することで、代表値の意味について理解を深めようとする。

ゆうきさんが根拠に使った最小の値は、1組のほうが2組より大きいから、1組のほうが本を多く読んだという結論と合っているね。

最頻値を根拠に使ったよしきさんも、1組の方が本を多く読んだという結論と合っているね。最頻値は、データの中で最も多い値のことだったね。



それでは、2組のほうが本を多く読んだという結論にしたいときには、何を根拠にするとよいか、もう一度考えてみましょう。

散らばりの大きさだけでは根拠にはならないんじゃないかな。

平均値のほかに、中央値や最大値が使えるんじゃないかな。



中央値は2組のほうが小さいから根拠にならないんじゃないかな。

代表値だけでなく、階級に目を向けてみていいんじゃないかな。

Point!

目的に応じて用いる根拠が変わることや、用いる代表値などによって結論が変わることについて理解できるようにする。

結論につながる根拠を選ぶことが大切だと思いました。結論によって選ぶ根拠は違うから、代表値のそれぞれの意味を分かったうえで判断できるようにになりたいです。



結果のポイント①
 教科調査と質問調査の関連を分析した結果、最後まで考えて取り組むこと、学習を振り返り改善すること、理由や根拠を理解しようとする、自分の考えを工夫して表現すること等との関連が比較的大きく見られた。

教科調査のスコアとの相関係数が高い生徒質問項目（上位5項目）						
国語				数学		
順位	質問番号	質問項目	相関係数	質問番号	質問項目	相関係数
1	14	今回の国語の最後の問題は、解答を文章で書く問題でした。その問題について、どのように解答しましたか。	0.31	34	小学校の算数の授業で、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていたと思いますか。	0.36
2	15	今回の数学の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。	0.30	15	今回の数学の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。	0.35
3	34	小学校の算数の授業で、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていたと思いますか。	0.26	29	小学校の授業では、課題に対してあきらめないで取り組んでいたと思いますか。	0.26
4	32	小学校の国語の授業で、自分の考えを話したり書いたりするとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていたと思いますか。	0.24	22	小学校の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	0.26
5	30	小学校の授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	0.23	23	小学校の授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていましたか。	0.25

生徒が回答したローデータから相関係数（ピアソンの相関係数）を計算。n = 8、257

今後に向けて

- ・ 公式やきまり、知識を単に暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」を考え、理由や根拠を理解する時間を大切にすること。
- ・ 文章、言葉、数、式などを用いて、理由や求め方を筋道立てて書く活動を充実させること。
- ・ 学習した知識や考え方を文章、資料、式などと結び付けて活用し、自分の考えが相手に伝わるように表現を工夫する場面を設定すること。
- ・ 児童生徒自らが課題の解決に向けて見通しをもち、自分で考え、あきらめずに取り組むことができるよう、学習過程を工夫すること。

3 生徒質問調査結果

結果のポイント② 令和7年度小学校第6学年と令和8年度中学校第1学年の同一集団を比較した結果、ICTを活用した情報整理やプレゼンテーション資料の作成、発表時の工夫など、情報整理や表現に関する項目で改善が見られた。

質問番号	質問項目	R7	R8	差
37	ICT機器を使って情報を整理することができますか。	69.7	83.1	△13.4
38	ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができますか。	68.2	79.1	△10.9
30	自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	70.6	80.2	△9.6
31	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	82.3	84.6	△2.3

結果のポイント③ 同一集団比較の結果、課題解決に向けて自分から取り組むことや、話し合いを通して考えを深めることに関する項目は高水準を維持している。一方、学習を振り返り、次の学習につなげることに関する項目には大きな改善が見られなかった。

質問番号	質問項目	R7	R8	差
28	学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていたと思いますか。	86.6	88.3	△1.7
22	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	84.3	85.3	△1.0

質問番号	質問項目	R7	R8	差	国語 相関係数	数学 相関係数
23	小学校の授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていましたか。	83.7	82.7	▼1.0	0.20	0.25

今後に向けて

- ICT機器を使って情報を整理したり、プレゼンテーション資料を作成したりする力が高まっていることを踏まえ、**ICTを効果的に活用することにより、教科の学びを深める**ことができるようにすること。
- 話し合いを通して自分の考えを深めたり、課題の解決に向けて自分から取り組んだりする学習活動を、引き続き大切にすること。
- 教科調査との相関が見られた**「学習の振り返り」**について、児童生徒が次の学習につなげることができるよう、振り返りの質的改善を進めること。

4 調査結果を踏まえた今後の方向性について

1 各学校における今後の方向性について

- (1) 前年度の調査のねらいと同じねらいの問題については、定着が図られていたり改善が見られたりしている問題が見られる。引き続き、各校における検証改善サイクルの取組や調査問題の積極的な活用を進めていく必要がある。
- (2) 「思考・判断・表現」の正答率は前年度の調査を上回っていることから、習得した知識及び技能を活用して課題を解決する授業実践や評価問題等の活用が進んだものと考えられる。今後も実践を積み重ねるとともに、「知識・技能」の確実な習得に向けて、事実に基づく知識と、知識の概念的な理解のバランスに配慮した指導及び評価を行う必要がある。
- (3) 生徒質問調査の「小学校の算数の授業で、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていたと思いますか」の項目の回答と平均正答率に相関が見られることから、授業において知識の概念的な理解に重点を置いた指導を行うことが大切である。
- (4) 「つまずきを生かした児童生徒一人ひとりの資質・能力の向上」の目標に向かい、本調査をはじめ、諸調査の分析を指導に生かすとともに、授業研究会等で課題のある内容に取り組む等、組織的に授業改善に取り組むことが大切である。

2 県教育委員会における今後の取組について

- (1) 「**学力向上iACT-R8**」に基づき、引き続き各教育事務所及び市町村教育委員会の指導主事との連携を図り、各学校における児童生徒のつまずきに着目した授業改善を支援する。
- (2) 本調査の結果分析を踏まえ、「思考・判断・表現」の正答率の向上や、ICTを活用した情報整理・表現等、成果が見られる取組は継続・充実を図るとともに、知識の概念的な理解や学習の振り返り等、課題が見られる内容については、各学校が調査結果や誤答の状況を基に改善策を検討できるよう支援し、学年や教科を超えた指導改善につなげる。
- (3) 本調査により、特に成果が見られた学校の取組例について、確かな学力育成プロジェクトの各会議等で共有し、広く周知を行う。

<特に成果の見られた学校の取組の例> ※同一集団において、R7全国学調と比較して大きな成果を上げている学校の取組の例

- ・調査結果等を校内で共有し、「**児童生徒はどこでつまずいたのか**」を具体的に捉え、「**児童生徒は何ができるようになればよいか**」の視点を重視し、授業改善に生かしている。
- ・小問ごとに目指す児童生徒の姿を想定し、「課題把握、見通し、自力解決、学び合い、まとめ」までの学習過程を工夫している。
- ・**児童生徒が根拠を明らかにして説明したり、友達の考えを聞いて自分の考えを深めたりする**など、アウトプットを重視した授業づくりに取り組んでいる。
- ・朝学習、補充学習、解き直し、家庭学習等を通して、基礎的・基本的な内容の定着と、児童生徒が自分の課題に応じて学び直す機会を継続的に設けている。
- ・**ICT機器**や**デジタル教材**を、情報整理、考えの共有、個に応じた学習等に活用するとともに、学習規律や学習環境を整え、学校全体で組織的・継続的に授業改善に取り組んでいる。

- (4) 各種学力向上関係事業と引き続き関連付けながら、学校訪問や各種研修会等をとおして、小問レベルで具体的に目指す姿を想定した児童生徒の深い学びにつながる授業づくりを支援する。
- (5) 本資料の**授業実践アイデア例**等を活用し、各学校が指導改善に一層取り組めるよう支援する。